

活動報告

ブルキナファソ 奥野 雅 (松戸市出身)

私の任国である西アフリカ最貧国1つ、ブルキナファソは現地語で「清廉潔白な人たちの国」という意味があります。挨拶を重んじ、家族や友人と助け合う人々の生活はまさにこの言葉を体現しています。このような人々に囲まれ、私は小学校教育隊員として日々活動しています。現在、配属先である28校を対象に机・椅子の修繕や黒板の塗り直し等の学習環境を整備し、その重要性を周知する活動や、PDCAサイクルを導入した現地教員との教材開発と授業改善プログラム、そしてその他様々な活動を広報誌として発行し、各学校に配布することで情報共有に留まらず、医療機関などとの連携を行うことで様々な角度から学校教育へのアプローチを試みています。



教材開発の様相

しかし、現在の活動に至るまでには多くの苦難がありました。着任当初は不慣れな言語での活動や日本と異なる習慣に壁を感じ、自分の不甲斐無さに葛藤する日々が続きました。そんな私の転機は、現地でできた一人の友人でした。彼は、肌の色も文化も異なる自分を受け入れ、

休日には私を飲み連れ出し、少しずつ日本の言葉や私が以前習っていた空手を覚え、時には私の活動に協力してくれることもありました。そんな彼を見て、「彼は私を受け入れてくれているのに、自分はこの国を受け入れていなかったのではないか。習慣が違う、言葉

が違うからと壁を作っていたのは自分ではないか」ということに気付きました。それから私は現地の先生たちの一助になるべく、できる限り学校に赴き、挨拶やコミュニケーションを取るよう努めました。教師の悩みや思いを聞いているうちに、自分に賛同してくれる先生に出会い、現在では少しずつ活動を行う学校が増えてきています。



休日の筆者

これまでの体験を通して、私は一つの考えを持ちました。それは、私の活動は「何かを変える」ためではなく、「変わることに手を貸す」ことであるということです。私には何かを変える力はありません。しかし、友人が私にしてくれたように、1人でも心を動かすきっかけになるような活動を行っていくことが私の協力隊員としてすべきことだと思います。

そして、「人の心を動かすには真実に触れること」が必要です。そのために、人との出会いを大切に、多くの人々の心に触れることで様々な思いを受け止めていきたいと思っています。同時に、私もこのブルキナファソで多くのことを学び、自己成長へと繋がれば良いと考えています。